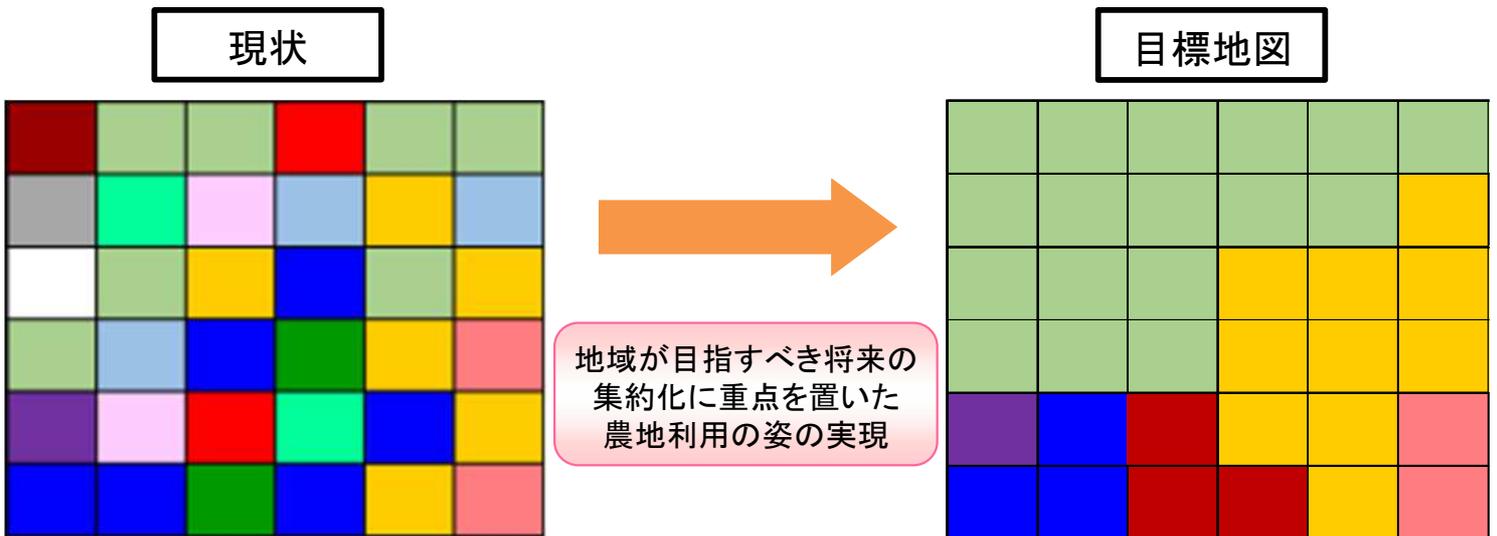


令和8年度 農地利用効率化等支援事業

地域計画の早期実現に向けて、地域の中核となる担い手が経営改善に取り組む場合に必要な農業用機械・施設の導入を支援します。

要 望 調 査 用



1. はじめに（事業の概要）

農地利用効率化等支援事業の概要は、以下のとおりとなっています。

（1）融資主体支援タイプ →詳しくは2ページから

融資を受けて、経営改善の取組に必要な農業用機械・施設の導入を行おうとする農業経営体に対して、支援します。

農業経営体の経営改善の実績及び目標、地域における農地集積の実績等を地区ごとにポイント化し、上位の地区から採択されます。

なお、以下の取組について優先枠を設けて支援します。

- ① **新たな技術を活用した農業用機械等の導入**による労働力不足の解消等のための取組（**スマート農業優先枠**）
- ② 「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、**環境に配慮した営農**に積極的に転換していくための取組（**みどり農業推進優先枠**）
- ③ 規模拡大による経営発展が制限される中山間地域等で、施設園芸など**集約型の農業の導入**による収益の向上のための取組（**集約型農業経営優先枠**）

（2）条件不利地域支援タイプ →詳しくは7ページから

経営規模が小規模・零細な地域において、農作業の共同化や農地の利用集積の促進等により、生産性の向上や農作業の効率化等を図り、意欲ある経営体を育成するため、必要となる共同利用機械等の導入を支援します。

2. 融資主体支援タイプについて

(1) 事業実施地区について

本事業の実施地区は、以下を満たす地区となります。
(該当するかどうかは市町村の農政担当部局へお問い合わせください。)

「地域計画」が策定されている地域

(2) 助成対象者について

本事業の支援の対象となる経営体は、以下のとおりです。
ただし、新規に就農した方は認定農業者又は認定就農者に限ります。

地域計画のうち目標地図に位置付けられた者

(認定農業者、認定就農者、集落営農組織、市町村基本構想に示す目標所得水準を達成している農業者及び市町村が認める者をいい、目標地図に位置付けられることが確実であると事業実施主体(市町村)が認める者を含む。)

(3) 支援の対象となる事業内容について

支援の対象となる事業内容は、以下のとおりです。

- ① 農産物の生産、加工、流通その他農業経営の開始若しくは改善に必要な機械等の取得、改良又は補強
- ② 農地等の造成、改良又は復旧

例えば、

- ・ トラクター、田植機、コンバインなどの農業用機械の取得
- ・ 乾燥調製施設(乾燥機)、集出荷施設(選果機)などの施設の取得
- ・ ビニールハウスの整備
- ・ 畦畔の除去、明きよ・暗きよ排水の整備などの農地等の改良
などが支援の対象となります。



事業内容の主な要件：

- ・ 融資を受けて機械等の導入を行うこと。（※1）
- ・ 個々の事業内容について、単年度で完了すること。
- ・ 事業費が整備内容ごとに50万円以上であること。
- ・ 事業の対象となる機械等は、耐用年数がおおむね5年以上20年以下のものであること。（※2）
- ・ 運搬用トラック、パソコン、倉庫等、農業経営の用途以外の用途に容易に供されるような汎用性の高いものでないこと。（※3）
- ・ 助成対象者の成果目標の達成に直結するものであり、かつ、既存の機械等の単なる更新を行うものではないこと。
- ・ 園芸施設共済、農機具共済の加入等、自然災害による被災に備えた措置がされるものであること。

※1 対象となる融資は、以下の機関が貸し付けを行う資金です。
農業協同組合、農業協同組合連合会、農林中央金庫、（株）日本政策金融公庫、銀行、
沖縄振興開発金融公庫、（株）商工組合中央金庫、（独法）奄美群島振興開発基金、
信用金庫、信用組合、都道府県

※2 中古機械及び中古施設にあつては、上記の要件に加え、使用可能と認められる年数が2年以上のものであることが必要です。

※3 ただし、フォークリフト、ショベルローダー、バックホー、GPSガイダンスシステム（農業用機械に設置するものに限る）などの機械については、以下の①～③の要件すべてを満たす場合に限り助成の対象となります。

- ① 農業の生産等に係る作業に使用する期間において他用途に使用されないものであること
- ② 農業経営において真に必要であること
- ③ 導入後の適正利用が確認できるものであること

また、環境衛生施設（トイレ等）、ほ場観測施設及び中継拠点施設（農機具格納庫等）などの施設については、①～③の要件に加え、ほ場又はほ場の隣接地に設置するものにより対象となります。

(4) 優先枠について

特定の取組に対し、優先枠を設けて支援します。

○スマート農業優先枠

新たな技術を活用した農業用機械等の導入による、労働力不足の解消等のための取組を支援

スマート農業への転換を支援するため、スマート農業技術活用促進法の生産方式革新実施計画に基づく機械の導入について優先枠を設けています。なお、導入を予定している全ての機械が、認定を受けた計画のスマート農業技術（計画の別記様式第2号4（4）Bの欄）又は新たな生産方式（計画の別記様式第2号4（4）Cの欄）と一致する必要があります。

○みどり農業推進優先枠

「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、環境に配慮した営農に積極的に転換していくための取組を支援

環境への負荷を低減し生産の持続可能性を高める取組を支援するため、みどりの食料システム法の環境負荷低減事業活動実施計画若しくは特定環境負荷低減事業活動実施計画に基づく機械の導入について優先枠を設けています。なお、導入を予定している全ての機械が、認定を受けた計画の実施内容（計画の別記様式第7号3（5）又は別記様式第8号3（5））と一致する必要があります。

○集約型農業経営優先枠

土地利用の制約などから、規模拡大による経営発展が制限される地域等における、集約型の農業の導入による収益の向上のための取組を支援

以下の①から③の要件を満たす方が対象になります。

- ① 耕種農家であること
- ② 目標年度における1ヘクタール当たりの付加価値額が50万円以上であること
- ③ 目標年度において、経営面積が現状より縮小しないこと

(5) 成果目標について

支援を受ける方は、①の必須目標と、②から④の選択目標（1つ以上を選択）について、目標年度（令和8年度事業の場合は令和10年度）の具体的な数値目標を設定し、その目標を達成していただく必要があります。

【必須目標】

①付加価値額（収入総額 - 費用総額 + 人件費）の拡大

【選択目標】

②農産物の価値向上、③単位面積当たり収量の増加、④経営コストの縮減

また、今後行う取組についてポイント化する場合は、以下の⑤から⑦の事業関連取組目標についても目標設定が必要です。

【事業関連取組目標】

⑤経営面積の拡大、⑥労働時間の縮減、⑦経営管理の高度化

(6) 助成金の算定方法について

個々の事業内容ごとに、以下の計算方法①～③により算定した額のうち一番低い額が助成金額となります。

ただし、算定した額が上限額を超える場合は上限額が助成金額となります。

〈計算方法〉

$$\textcircled{1} = \frac{\text{事業費} \times 3}{10}$$

$$\textcircled{2} = \text{融資額}$$

$$\textcircled{3} = \text{事業費} - \text{融資額} - \text{地方公共団体等による助成額}$$

〈上限額〉

法人・個人問わず 300万円

※ 目標地図に位置付けられた者であって、目標年度の経営面積が次に掲げる基準以上となる場合は、600万円

- ・水田作等 20ヘクタール
- ・露地作 5ヘクタール
- ・果樹作 3ヘクタール
- ・施設園芸作 1ヘクタール